

エコスタイルの灯かりを考える

覚えていますか？夏の通勤スタイルを軽装にして冷房エネルギーを削減しようという省エネルギー、たしかエコスタイルと言っていたような気がする。エコジョース

スタイルの住まいに求められる照明計画とは何だろうと聞かれたら、「まずは省エネそして環境と人の健康や快適な暮らしに及ぼす影響を考えること」などと優等生の答えをするだろう。

実際の現場では具体的に出来ることは限られてくる。省エネのために出来ることは unnecessary 照明器具をつけないとか省エネ型の蛍光灯ランプを使うようにするといったところだろうか。また環境を考えるとプラスチック素材を使用しないガラスや紙で出来た照明器具を選ぶ、あるいはスイッチプレートも木やメタル製にする。配線ケーブルには塩化ビニールを使用していない脱塩ビ素材のエコケーブルを使用するなどが今の私達に出来る精一杯のことだろう。しかし人の健康

や快適な暮らしにかかわる照明とは何かを考えるときにナチュラルなエコスタイルの住まいの灯かりが見えて来るよう

エコハウスのライティング計画は出来るだけ自然に近い環境を創ることだ。照明体を隠し直接電球を見せないようにすることや光の反射や拡散による変化をつけることも大切で、光の色を考えて計画することが基本だ。光には赤、青、緑の3原色がある。大空の空気中の水分が太陽光に映し出された虹に見ることが出来る光の色彩は、紫から赤まで順に色（紫・青・緑・黄・赤の順）並んでいる。この可視光線の色の波長を光のスペクトルという。

自然の太陽光の色を大きく分けるなら、日中活発に活動するための青とリラックスしてくつろげる朝と夕方の方の赤に分かれる。人工照明は電球によって光のスペクトルが変わっているため照明の選択によって光の効果が変わる。適切な照明計画に

よるストレスのない室内空間は人の健康と快適性にとっても良い作用があるのだろうと思う。

白熱灯やハロゲンランプの灯かりのスペクトルは青や緑の光は少なく黄色から赤が多い光源である。投影される色は黄色を映し出して赤外線熱を放射する。太陽光の朝と夕方の方のスペクトルを持つこの灯かりは居室の夜間照明にとって最適なのだ。天井や壁に映し出される暖かな間接光は開放感と安らぎを与えてくれる。

蛍光灯やコンパクト型省エネ蛍光灯の灯かりのスペクトルは赤と黄の光は少なく緑と青が多い光源である。投影される色は青白くその冷たさを補うために電球色や昼光色のランプがある。太陽光の昼のスペクトルを持つこの灯かりは事務所や作業場向きで居室の夜間照明には向かない。また省エネ蛍光灯のスペクトルバランスはさらに悪いのだが省

エネを考えると捨てがたい。廊下や納戸などの居室以外での使用を考えたほうが良いかもしれない。

フルスペクトラルランプの灯かりは限りなく太陽光に近いスペクトルを持つ電球で、トライトで知られる直管型蛍光灯タイプとコンパクト蛍光灯タイプがある。太陽光に近いということは紫外線を放射することだが、屋外に出られない病人、お年寄りの部屋あるいは動植物の飼育室など日中の自然光に近い環境が必要な部屋や昼の作業用照明として利用してみてもいいだろう。台所、パソコンや学習机など目に優しい光は一般家庭でも使えそう。一般蛍光灯に比べスペクトルバランスが格段に良いが40W蛍光灯タイプで¥6000、20Wコンパクト蛍光灯タイプで¥5800とかなり割高だ。しかし寿命は一般蛍光灯に比べ数倍長持ちする。

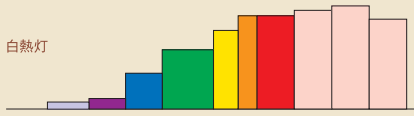
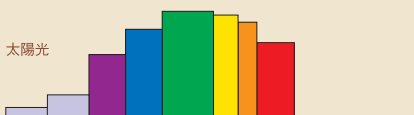
コンパクト蛍光灯タイプのフルスペクトラルランプや自然石をくり貫いて電球を仕込んだストーンライトが並ぶ。ドイツの環境博、エコメッセにて撮影



ドイツのシュタイナースクール。小学年の廊下は曲線で構成され、独特のぼかした色彩の空間をブラケット照明が映し出す。ドアを開けて中に入ると自然光の差し込む明るい教室になっている。



紫外線 可視光線 赤外線



Ecology House

環境と健康を考えたエコロジー建築



自然素材で新築・リフォーム

エ / コ / ロ / ジ - / 建 / 築 / エ / 房

有限会社 一級建築士事務所

西條インテリアデザイン

本社 / 札幌市北区百合が原4丁目8-1

tel. 011-774-8599 fax. 011-774-8581

伊達支店 / 伊達市舟岡町50-28

tel. 0142-22-0138 fax. 0142-22-0139

ホームページ <http://www.saijo-d.com>

call number

資料請求番号

ハガキで資料を取り寄せられます。



エコデザイナー

西條 正幸



1960年伊達市生まれ。札幌を中心にナチュラルスタイルの店舗、住宅の空間デザイナーとして活動。自然素材にこだわった新築、リフォームの設計、施工会社「西條インテリアデザイン」代表取締役。エコスタイルショップ「素材自店」店主。

ハロゲンライトのペンダント照明で演出され自然素材の木と珪藻土の土壁につつまれたリビング空間

エコスタイルの灯かりを考える

覚えていますか？夏の通勤スタイルを軽装にして冷房エネルギーを削減しようという省エネルギー、たしかエコスタイルと言っていたような気がする。エコジョース

スタイルの住まいに求められる照明計画とは何だろうと聞かれたら、「まずは省エネそして環境と人の健康や快適な暮らしに及ぼす影響を考えること」などと優等生の答えをするだろう。

実際の現場では具体的に出来ることは限られてくる。省エネのために出来ることは unnecessary 照明器具をつけないとか省エネ型の蛍光灯ランプを使うようにするといったところだろうか。また環境を考えるとプラスチック素材を使用しないガラスや紙で出来た照明器具を選ぶ、あるいはスイッチプレートも木やメタル製にする。配線ケーブルには塩化ビニールを使用していない脱塩ビ素材のエコケーブルを使用するなどが今の私達に出来る精一杯のことだろう。しかし人の健康

や快適な暮らしにかかわる照明とは何かを考えるときにナチュラルなエコスタイルの住まいの灯かりが見えて来るよう

エコハウスのライティング計画は出来るだけ自然に近い環境を創ることだ。照明体を隠し直接電球を見せないようにすることや光の反射や拡散による変化をつけることも大切で、光の色を考えて計画することが基本だ。光には赤、青、緑の3原色がある。大空の空気中の水分が太陽光に映し出された虹に見ることが出来る光の色彩は、紫から赤まで順に色（紫・青・緑・黄・赤の順）並んでいる。この可視光線の色の波長を光のスペクトルという。

自然の太陽光の色を大きく分けるなら、日中活発に活動するための青とリラックスしてくつろげる朝と夕方の方の赤に分かれる。人工照明は電球によって光のスペクトルが変わっているため照明の選択によって光の効果が変わる、適切な照明計画に

よるストレスのない室内空間は人の健康と快適性にとっても良い作用があるのだろうと思う。

白熱灯やハロゲンランプの灯かりのスペクトルは青や緑の光は少なく黄色から赤が多い光源である。投影される色は黄色を映し出して赤外線熱を放射する。太陽光の朝と夕方の方のスペクトルを持つこの灯かりは居室の夜間照明にとって最適なのだ。天井や壁に映し出される暖かな間接光は開放感と安らぎを与えてくれる。

蛍光灯やコンパクト型省エネ蛍光灯の灯かりのスペクトルは赤と黄の光は少なく緑と青が多い光源である。投影される色は青白くその冷たさを補うために電球色や昼光色のランプがある。太陽光の昼のスペクトルを持つこの灯かりは事務所や作業場向きで居室の夜間照明には向かない。また省エネ蛍光灯のスペクトルバランスはさらに悪いのだが省

エネを考えると捨てがたい。廊下や納戸などの居室以外での使用を考えたほうが良いかもしれない。

フルスペクトラルランプの灯かりは限りなく太陽光に近いスペクトルを持つ電球で、トライトで知られる直管型蛍光灯タイプとコンパクト蛍光灯タイプがある。太陽光に近いということは紫外線を放射することだが、屋外に出られない病人、お年寄りの部屋あるいは動植物の飼育室など日中の自然光に近い環境が必要な部屋や昼の作業用照明として利用してみてもいいだろう。台所、パソコンや学習机など目に優しい光は一般家庭でも使えそう。一般蛍光灯に比べスペクトルバランスが格段に良いが40W蛍光灯タイプで¥6000、20Wコンパクト蛍光灯タイプで¥5800とかなり割高だ。しかし寿命は一般蛍光灯に比べ数倍長持ちする。

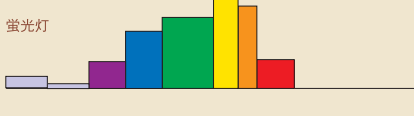
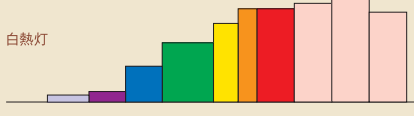
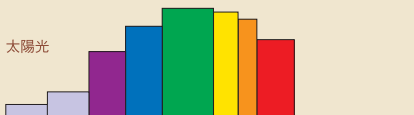
コンパクト蛍光灯タイプのフルスペクトラルランプや自然石をくり貫いて電球を仕込んだストーンライトが並ぶ。ドイツの環境博、エコメッセにて撮影



ドイツのシュタイナースクール。小学年の廊下は曲線で構成され、独特のぼかした色彩の空間をブラケット照明が映し出す。ドアを開けて中に入ると自然光の差し込む明るい教室になっている。



紫外線 可視光線 赤外線



Ecology House

環境と健康を考えたエコロジー建築



自然素材で新築・リフォーム

エ / コ / ロ / ジ / ー / 建 / 築 / エ / 房

有限会社 一級建築士事務所

西條インテリアデザイン

本社／札幌市北区百合が原4丁目8-1

tel. 011-774-8599 fax. 011-774-8581

伊達支店／伊達市舟岡町50-28

tel. 0142-22-0138 fax. 0142-22-0139

ホームページ <http://www.saijo-d.com>

call number

資料請求番号

ハガキで資料を取り寄せられます。



エコデザイナー
西條 正幸



1960年伊達市生まれ。札幌を中心にナチュラルスタイルの店舗、住宅の空間デザイナーとして活動。自然素材にこだわった新築、リフォームの設計、施工会社「西條インテリアデザイン」代表取締役。エコスタイルショップ「素材自店」店主。

ハロゲンライトの
ペンダント照明で演出され
自然素材の木と珪藻土の
土壁につつまれたリビング空間